

国際交流基金助成金事業報告書

薬学部 3年次生 三谷 優香

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受け、2018年2月26日から3月10日の2週間にわたり、語学・薬学研修としてオーストラリアのニューサウスウェールズ州を訪れたことを報告いたします。ホームステイをしながらキングスクリフに位置するノースコースト TAFE キングスクリフ校という職業訓練専門学校にて英語と薬学の授業を受けました。英語を通じた意思の疎通とともに異文化交流を楽しみ、自身の見識を広げることを目標に今回の留学に取り組みました。

2. ホームステイについて

私が滞在したホームステイ先は、日本出身のホストマザーとシドニー出身のホストファザー、3歳と4歳の息子さんがいるご家庭でした。ホストマザーが日本人だったため、海外留学をする意義や大変さについて、ご自身の経験に基づく理解やアドバイスを示してくださり、細やかな気配りをしていただきました。ホストファミリーのお宅に到着して最初に実感したことは、子育ての大変さと親御さんの苦勞でした。嵐のような子供たち二人を相手にして家事をこなす全世界のお母様は、とても偉大だと思いました。家事をしている間に子供の様子を見てほしいと言われたため、子供たちと遊んでいました。レゴやマグネット、車のおもちゃに加え、カルタなどの知育玩具も数多く見受けられました。一緒に遊んでいると年子の二人にも性格的な違いがあることが分かり、とても興味深かったです。滞在期間を通して様々な国籍の料理を振る舞って頂きましたが、果物とお肉がサラダの一部として共存することが印象的でした。週末に向けて料理がグレードアップしていくのが一般的らしく、誰もが週末を心待ちにしていることが伝わってきました。近隣の方々と料理を持ち寄ってのパーティーも頻繁に行われていました。また、オーストラリアの有名な発酵食である、ベジマイトを紹介して頂きました。99.9%の外国人は苦手だという説明にとっても興味がそそられました。茶色く塩気のきいた味で、パンなどに塗って食べるそうです。日本でも納豆の好み分かれるのと同じようなもの、という話がとても納得出来ました。オーストラリアの家庭内でも好みは分かれているようでした。週末と言わずサーフィンを楽しむ家庭は多いようで、天気を見てはサーフィンに出掛けていました。サーフィンで格好良く立ち上がるのはかなりの練習が必要だということを実感しました。自由時間を見つけては様々な場所へ連れていってくださるホストファミリーのおかげで、とても充実した生活を送ることができました。



写真 1.ホームパーティー



写真 2.ビーチ

3. TAFE キングスクリフ校について

この学校は職業訓練専門学校ということもあり、調理師や看護師・グラフィックデザイナー・翻訳関係など様々な職業の資格を取るコースが存在するようでした。私たちは、平日の9時から4時まで英語や薬学のクラスを受講しました。英語のクラスではオーストラリアの地理や歴史についてのグループワークをしたり、ホームステイ中に出てきた新しい単語を書き出したりして、ゲーム形式で英語を覚えていきました。薬学のクラスではオーストラリアの保険制度や医薬品の分類などについて説明して頂き、薬局の見学もしました。オーストラリアでは強力な紫外線から肌を守るため、日焼け防止に重きを置いた様々な商品が見受けられました。また、サプリメントも浸透しているようで、ビタミン剤などが数多く陳列しているのもとても印象的でした。患者が個人の判断で手に取れる医薬品、薬剤師の目の届く範囲に設置しなければならない医薬品、薬剤師の説明や処方箋が必須の医薬品などが明確に区別されていました。最終日は St Ambrose Primary School にて日本文化についての交流を行いました。この研修に参加した学生 14 名で二人ずつのグループを組み、日本の慣習である、折り紙やあやとりなどのゲームをしたり、巻きずし作り体験などをしたりしました。オーストラリアにも日本食の文化が多少浸透していて、準備の段階で各家庭からすしマットを借りることができたことがとても印象的でした。私のグループは手裏剣の作り方について説明し、手裏剣や忍者についての簡単な説明を加えていました。持ち時間が7分だったので、手裏剣を作るだけでほとんど時間は過ぎてしまいましたが、それぞれが楽しんでくれていたようなのでほっとしました。こちらの説明が拙くても意思の疎通が出来ることを実感できたことも、有意義であったと思いました。



写真 3.キャンパス



写真 4.薬局見学

4. 観光について

週末は、Currumbin Wildlife Sanctuary に行き、動物たちとふれあいました。Sanctuary は保護区という意味で、交通事故にあったコアラやカンガルーのための病院が併設されていました。当日晴天だったこともあり、施設内はオーストラリアの気候に輪をかけて蒸し暑く、水分補給が必須の一日でした。一部を除いて動物たちは放し飼いされており、距離感がとても近いことが印象的でした。昼食のために立ち寄ったレストランでは、物怖じしない鳥たちによる衆人環視のもと、争いの火種を与えないように粛々と食べ進めました。暑さのためか活動を休止している動物たちが多く見受けられたように思いました。後で聞いた話によると、オーストラリアの動物は温暖な気候のために、大半が夜行性だそうです。夜中や明け方に出てくる動物たちもいると聞きました。私のホストファミリーの家ではペットとしてウサギを飼っていましたが、野生のウサギがそこかしこに存在し、駆除対象になっているところもあると聞いて複雑な気分になりました。また、今回は毎回第二日曜日に開催されるというサンデーマーケットにも参加することができました。各人が出店している店舗とは別に地元住民による寄付で成り立っている区画もあり、様々な商品が並べられていました。雑誌や本、様々な衣服やオーストラリア独特のお土産物のお店がたくさんあり、地元民から愛されている様子が伝わってきました。見たことのない品物の説明を聞いたりすることがとても楽しく、良い経験になりました。



写真5. エミューと集合写真

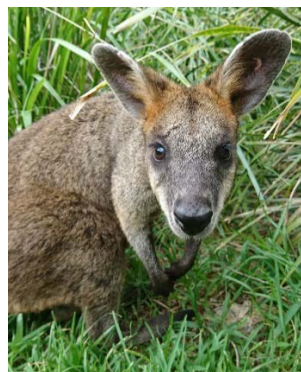


写真6.ワラビー

5. おわりに

2週間という短い期間でしたが、オーストラリアに来て様々なものを見聞きし、あたたかく受け入れてくださる人々の優しさにふれることができました。この地に根付いた文化や生活に触れる毎日は、とても刺激的で得難いものでした。こちらの話を聞き取ろうとしてくれる人が多く、コミュニケーションが苦にはなりません。オーストラリアに来て、自国の文化を説明する難しさを実感し、質問に対して的確にわかりやすく答えられるということの素晴らしさを痛感しました。今回の経験を今後の日常生活や社会に出てからの糧とできるよう、日々精進して参りたいと思います。

国際交流基金の助成により、このように貴重な経験をさせて頂くことができました。このような機会を与えてくださったことに感謝いたします。